

スポーツを通じた社会連携活動を利用した 教育プログラムの開発

Education program design using social engagement activities in sports

<プロジェクト・メンバー>

佐藤敏彦^{†1}, 吉本完明^{†2}, 苅宿俊文^{†1}, 原晋^{†3}, 稲積宏誠^{†1}

Toshihiko Satoh, Sadaaki Yoshimoto, Toshihumi Kariyado, Hara Susumu, Hiroshige Inazumi

^{†1} 青山学院大学大学院社会情報学研究科

Graduate School of Social Informatics, Aoyama Gakuin University

^{†2} 青山学院大学フィットネスセンター

Fitness center, Aoyama Gakuin University

^{†3} 青山学院大学地球社会共生学部

School of Global Studies and Collobaration, Aoyama Gakuin University

抄録：青山学院大学では2015年度より主に体育会学生を対象に「スポーツキャリアプログラム」を実施してきた。このプログラムはアスリートの経験を活かしつつ、データ分析能力とコミュニケーション能力を身につけることにより、これからの社会で活躍できる人材を養成することを目的としている。この目的を達成するために、本教育プログラムは地域社会との連携とそれに基づく研究との所謂「教育・研究・社会連携」の三位一体化を実現することが不可欠と考えた。昨年度より社会連携活動の一環として「青トレコンディショニング」イベントを実施し一定の成果を挙げてきた。今後はこの活動を「プラットフォーム」として研究活動と教育プログラム開発をしていきたい。

キーワード：スポーツキャリアプログラム, 教育・研究・社会連携, イベント, 教育プログラム

Keywords : sports career program, education, research and social engagement, event, education program

1. はじめに

青山学院大学ではこれからの社会で活躍できるアスリートの経験を活かしたキャリア開発を目的として2015年度に「スポーツキャリアプログラム」(AGU-SCP)を開設した。このプログラムでは、少子高齢化社会あるいは高度情報化社会に求められる能力として「情報分析能力」と「コミュニケーション能力」を取り上げ、スポーツとの関わりの中でこれら二

つの能力を伸ばすことを目指したが、実社会で活躍できることを念頭に置き、キャンパス内での理論的アプローチに加え、地域や社会との具体的な関わりの中で能力を身につけていく実践的アプローチを演習に導入してきた。

具体的には、1) スポーツクラブ会員に対する体力測定と指導, 2) 「バルシューレ」というボールを使ったスポーツ教室への参加, 3) 小中学生向けの「スポーツワークショップ」の企画, 運営, 省察, 等である。このような中、本学陸上競技部長距離部門による箱根駅伝の四連覇により、そのトレーニング方法が「青

トレ』として世間に注目されるようになった。そこで、昨年度より、この「青トレ」を紹介するイベントを本学のフィットネスセンターで企画・実施したところ好評を得て現在も定期的な実施をしているところである。これらのイベントはこれまでフィットネスセンター職員およびフィットネスを普段から利用している学生ボランティアの協力により実施されてきたが、本稿は、今後この活動を教育プログラムに落とし込むことを検討したので報告するものである。

2. スポーツキャリアプログラムでなぜ地域連携事業が必要なのか

スポーツキャリアプログラムの目的は、これからの社会で活躍できる人材の育成であるが、現在の社会は少子高齢化、高度情報化の中で大きな変革が進んでおり、社会の課題やニーズを常に把握し、新たなソリューションとそれらを担う人材を創出していく必要がある。

そのためには、地域社会に密接して、新たなエビデンスを見出していかなければならず、その成果を教育に生かすことで、教育の活性化が図れるのである。また、地域社会は研究フィールドであると同時に教育実習の場にもなる。これが即ち、教育、社会連携、研究の三位一体化である（図1）。

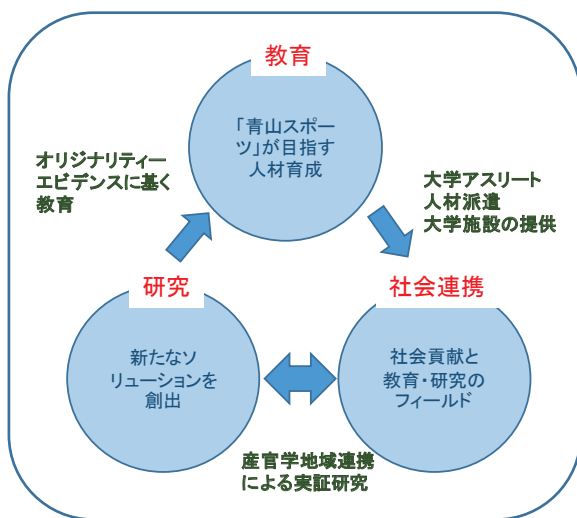


図1. 教育、社会連携、研究の三位一体化

3. 「青トレコンディショニング」イベント概要

2018年度から「青トレコンディショニング」と称した子供向けのスポーツ教室を実施した。これは青山学院大学陸上競技部長距離部門のトレーニング、いわゆる「青トレ」を元にしたストレッチ運動を中心とした1時間強のプログラムである。2018年10月に青山キャンパスの青山学院記念館で実施したのが初回で、以後、2018年度に相模原キャンパスでの実施も含め計5回、2019年度にも計10回ほど実施している。また、2019年度は、成人向けのヨガ教室やSUP(Stand Up Puddle Surfing) ヨガ教室を試行的に実施したり、原監督の講演会を同時開催する等、イベントの多様化を図ってきた(表1)。参加人数定員は、いずれの会も40名程度としていたが、後述するように広報の効果もあり、最近ではほとんどの教室が定員を上回る参加者数となっている。

表1. 2019年度開催イベント一覧

スケジュール	参加数	参加者内訳
1 6月15日(土)青山(アドバンス)	済 40名	男子28名(小学生24・中学生4) 女子12名(小学生12) ☆リピーター14名
2 6月22日(土)相模原(ベーシック)	済 42名	男子31名(小学生31) 女子11名(小学生11) ☆リピーター3名
3 7月7日(日)青山(ベーシック)	済 51名	男子34名(小学生34) 女子17(小学生17) ☆リピーター12名
4 7月20日(土)相模原(ベーシック)	済 51名	男子32名(小学生30 中学生2) 女子19名(小学生18、中学生1)
5 7月21日(日)青山「ボディメイクヨガ」	済 66名	男性14名(10代1、20代2、40代4、50代5、60代以上1、飛び入り1) 女性52名(10代2、20代14、30代3、40代19、50代8、60代以上3、飛び入り3)
6 7月28日(日) 青山「SUPヨガ」(青山学院記念館屋外プール)	済 60名	①10:30-22名 男性9女性13 ②13:00-19名 男性3女性16 ③15:00-19名 男性3女性16
7 8月16日(金)青山(アドバンス)	済 58名	男子34名(小学生33名中学生1名) 女子13名(小学生11名中学生1名高校生1名) 成人男子6名、成人女子5名
8 8月23日(金) 相模原(ベーシック)	済 44名	男子30名(小学生) 女子14名(小学生12名中学生2名)
9 9月22日(日) 青山(ベーシック)	済 38名	男子27名(小学生26名中学生1名)、女子11名(小学生9名中学生1名高校生1名)
特 10月20日(日) 三重県いなべ市「スポーツゲームズinいなべ」出張青トレ	済 39名	小学生22名、中学生7名、大人10数名(保護者・指導者・いなべ市体育協会関係者)
10 11月9日(土) 相模原 原監督スペシャルイベント	済 95名	男子45名(小学生18、中学生3、高校生1、20代2、30代5、40代7、50代6、60代以上3) 女子50名(小学生17、中学生2、20代1、30代3、40代10、50代17)
11 11月30日(日) 青山(アドバンス)	済 38名	男子(小学生23、中学生2) 女子(小学生11、中学生2) 保護者向け栄養セミナー40分同時開催
12 12月8日(日) 青学ボディメイクヨガ	済 65名	男性15名(20代7、30代2、40代2、50代1、60代3) 女性50名(10代8、20代22、30代2、40代10、50代7、60代1)
13 2月8日(土) 青トレ	予定	
14 3月21日 or 22日	予定	

図2の写真は各イベントの実施風景である。会場の運営、雰囲気作りはフィットネスセンター職員およびフィットネスセンターの学生会員ボランティアにより、会を重ねるにつれ完成、定型化されたものになってきている。SUPヨガは青山学院記念館屋外プールでSUPヨガ協会の協力のもと実施したが、通常はリゾート地等で行われるSUPヨガをプールで実施する試みはユニークで限られた広報であったのにも関わらず一定の注目を集めた。



図2(1). 第一回青トレコンディショニング実施風景
(後列は学生ボランティア)



図2(2). 2018年度第2回実施風景
(年齢別にランニングによるウォーミングアップ)



図2(3). SUPヨガ実施風景

4. イベント企画と広報について

前述したように一連のイベントはこれまで、フィットネスセンターのスタッフと学生ボランティアにより企画、運営されてきた。イベントを開催するにあたっては当初から渋谷区あるいは相模原市の広報に相談し、区民報や市民報の紙面で告知していたが、徐々にTwitter等のSNSや、それにリンクする形でホームページ上にポスターを掲示する等、より多くの方に知ってもらう工夫をしている図3(1)。

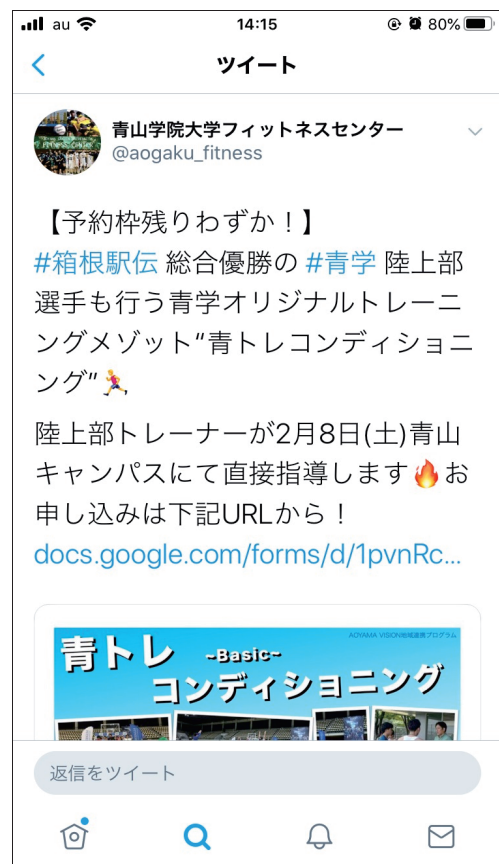


図3(1). Twitterによる広報例

また、参加者の満足度を上げるために、幟や駅伝チームの巨大ユニフォームの展示などの会場の雰囲気づくりや、記念撮影会や抽選会も行ったりしてきた図3(2)。



図3(2). 終了後記念撮影

さらに、様々な層に参加していただくためにヨガやSUP ヨガ等、成人向けの企画も試行している。

青山VISION地域貢献プロジェクト第2弾

AOGAKU Body Make Yoga

初めてでも安心!
ボディラインを整える
青学オリジナルヨガ

講師：赤沼 直美 ヨガスタジオビューラ・ディレクター
ヨガスタジオ、フィットネスクラブでの指導、全米ヨガアライアンスヨガ指導者養成トレーニング主宰講師の他ヨガプログラム開発、書籍、雑誌、CM、DVD監修など幅広く活動。
日本最大ヨガイベント「YOGA FEST」では2004年～2018年の間、15年連続でプレゼンターを務める。
心地良い感覚を得ながら参加者の目的（シェイプアップ、柔軟性向上、健康増進、ストレスコントロールなど）に対する効果が自然と得られる高い指導力が好評。

開催日時 7月21日(日) 7:45~9:00 (7:15受付開始)

場所 青山学院記念館 (渋谷駅徒歩15分・表参道駅徒歩5分) ※公共交通機関でお越し下さい

対象 16歳以上 (対象年齢外の参加希望はご相談下さい)

参加費 1,000円 (当日現金払い)

**お申込
お問合せ** 青山VISION スポーツキャリアプログラム事務局
Mail : a.agufc@gmail.com Tel : 03-3409-6017
※詳細、お申込はQRコードよりお願いします

図4(1). 青学ボディメイクヨガ

(外部講師の協力の下、ヨガのオリジナルプログラムの考案、普及を検討した)

青山VISION地域貢献プロジェクト 第3弾

AOGAKUプールで SUP YOGA!!

開催日時 7月28日(日)
第1回10:30- 第2回13:00- 第3回15:00-

場所 青山学院記念館 屋外プール
(渋谷駅徒歩15分・表参道徒歩5分) ※公共交通機関でお越し下さい

対象 16歳以上
(対象年齢外の参加希望はご相談下さい)

参加費 2500円 (ボードレンタル費、保険代)

持ち物・服装 濡れてもいい服装、タオル、飲み物

協力 Hawaii SUP Yoga Association
一般社団法人日本SUPヨガ協会

お申込み・お問合わせ
青山VISIONスポーツキャリアプログラム事務局
Mail a.agufc@gmail.com tel.03-3409-6017
詳細、お申込みは右記QRコードから

図4(2). 青学 SUP ヨガ

このような活動が周知されるに従い、渋谷区、相模原市以外の行政からの依頼も出てきている。2019年度には三重県いなべ市のスポーツイベントに招待され青トレコンディショニング教室を実施した(図5)。



図5. いなべ市の出張教室風景

5. 教育プログラムとの 連動について

上述してきたとおり、我々が社会連携事業としておこなってきた一連の「青トレコンディショニング」イベントはその企画、運営をフィットネスセンターのスタッフと学生ボランティアに委ねてきたが、この一連の過程を、社会情報学部で実施している「プロジェクト演習」や「ワークショップデザイナー育成プログラム」に落とし込むことは十分可能と考える。

即ち、渋谷区や相模原市をはじめとする地方自治体の共通課題である「スポーツ人口の増大」や「スポーツ指導者の育成」を踏まえた上で、多くの人々が参加する魅力あるプログラムを企画し、それを運営、実行する。さらに、省察を加え、改善策を考える。これらのプロセスはまさに実社会において求められるものであり、このプログラムを学ぶことにより実践的なスキルを身に着けることができると考えられる。

6. 今後の課題とまとめ

少子高齢化に対応した社会づくりには健康寿命の延伸と地域コミュニティの活性化が重要である。スポーツイベントはこれらに対するソリューションの可能性を秘めている。学生時代から、重要課題に触れ、実践的な学びを得ることで、将来、社会に貢献する人材となることが期待される。本学だからこそ可能な独自のスポーツイベントを通じて人材育成と研究開発をすべく、「青山スポーツ」のあるべき姿を確立することが重要と考える。

【謝辞】

本稿で紹介しました社会連携イベントを含むスポーツキャリアプログラムは2018年度および2019年度「青山ビジョン」の予算による助成を受けて実施しました。また、実施にあたり、本学フィットネスセンターおよびスポーツ支援課の方々、学生ボランティア、のご協力をいただきました。ここに感謝の意を表します。

6. 参考文献

佐藤敏彦, 荻宿俊文, 稲積宏誠: これからの社会で活躍できる人材を育成するスポーツキャリアプログラムの開発について: 青山学院大学スポーツキャリアプログラム (AGU-SCP) 青山社会情報研 9:68-72

佐藤敏彦, 荻宿俊文, 稲積宏誠: 青山学院大学スポーツキャリアプログラム (AGU-SCP) における演習科目の現状と課題 10:103-105

青山学院大学スポーツキャリアプログラム <http://aguscp.jp/> Accessed 2020.2.1

青山学院大学社会情報学部ワークショップデザイナー育成プログラム

<http://wsd.irc.aoyama.ac.jp/> Accessed 2020.2.1